

# 債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー






南アフリカ



インドネシア



インド

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		6/2 (5/26との比較)	6/2 (5/26との比較)	前年比 (※3)	先週末		
		今後の見通し (※4)	今後の見通し (※5)	景気の方向性 (※6)	方向性 (※7)		
カナダ 	AAA	1.40% (▲0.05)	81.82円 (▲1.19%)	+2.3% 2017年1Q	0.50%	GDP（国内総生産）は前期比で改善し、国際商品貿易は市場予想を下回る内容。国債利回りは低下。米国のパリ協定離脱表明などを受けて原油価格が軟調な展開となる中、カナダドルは対円で下落。	住宅着工件数や雇用統計などの発表が予定され、景況感の改善度合いを探る環境。米国を中心に各国政治経済動向が意識される中、引き続き国債利回りはレンジ内での推移を予想。原油価格の動向も引き続き注目。
	Aaa	→ 金利横ばい	↗	→ 景気安定	→ 据え置き局面		
ブラジル 	BB	10.39% (+0.07)	34.00円 (▲0.44%)	-0.4% 2017年1Q	10.25%	汚職隠ぺい疑惑の動向をにらみ、神経質な相場展開が継続。中銀が為替市場を下支えする中、レアルは対米ドルで上昇、対円では下落。利下げペースの鈍化が示唆されたことなどから、国債利回りは上昇。	通貨政策委員会の議事録が公表される予定。今後の利下げペースに関する議論に注目。引き続き同国の汚職問題の行方や大統領の進退に注目が集まる中、債券・為替市場は神経質な展開を想定。
	Ba2	→ 金利横ばい	→	↗ 景気回復	↘ 利下げ局面		
メキシコ 	A	7.22% (▲0.03)	5.91円 (▲1.73%)	+2.8% 2017年1Q	6.75%	米国の追加利上げペース鈍化が意識されたことなどから、国債利回りは小幅低下。ペソは同国州知事選挙への警戒感などから対米ドル、対円ともに下落。	インフレ統計などの発表を予定。FOMC（米連邦公開市場委員会）などのイベントを控え、国債利回りには上昇圧力のかかりやすい展開を想定。ペソはNAFTA（北米自由貿易協定）再交渉を見据え、神経質な展開を予想。
	A3	↗ 金利上昇	↗	→ 景気安定	↗ 利上げ局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		6/2 (5/26との比較)	6/2 (5/26との比較)	前年比 (※3)	先週末		
		今後の見通し (※4)	今後の見通し (※5)	景気の方向性 (※6)	方向性 (※7)		
オーストラリア 	AAA	2.41% (+0.00)	82.18円 (▲0.88%)	+2.4% 2016年4Q	1.50%	民間設備投資は市場予想を下回る一方で、小売売上高は市場予想を上回る内容。世界的に金利低下の動きが続く中、国債利回りはほぼ変わらず。オーストラリアドルは対円で下落。	景況感を見極める環境下、中銀は政策金利を据え置くと予想。GDP（国内総生産）や貿易統計などの発表が予定され、欧米と中国の政治経済動向にも注目。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		
ニュージーランド 	AA+	2.77% (▲0.04)	78.88円 (+0.35%)	+2.7% 2016年4Q	1.75%	中銀が発表した金融安定報告書で、住宅価格の再上昇が金融システムへのリスクになり得るとの見解が示される。交易条件指数が市場予想を上回ったことなどから、ニュージーランドドルは対円で上昇。国債利回りは低下。	隔週の乳製品入札のほか製造業活動指数などの発表を予定。中銀は住宅ローン規制を強化する方針を示唆し、金融システムのリスクを予防する意味では好ましい動きながら、成長率を抑制する要因に。
	Aaa	 金利横ばい		 景気回復	 利上げ局面		
ノルウェー 	AAA	1.48% (▲0.05)	13.12円 (▲1.28%)	+2.6% 2017年1Q	0.50%	小売売上高や失業率が改善した一方、製造業PMIは低下するなど経済指標はまちまちの内容。景気に対する見方が大きく変化しない中、原油価格が軟調に推移し、ノルウェークローネは対円で下落。国債利回りは低下。	鉱工業生産やインフレ率などの発表が予定されるが、市場参加者の経済に対する見方を大きく変えるような内容とはならない見込み。景気に方向性が見られない中、同国の金融市場は原油価格動向の影響を受けやすい環境。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		6/2 (5/26との比較)	6/2 (5/26との比較)	前年比 (※3)	先週末		
		今後の見通し (※4)	今後の見通し (※5)	景気の方向性 (※6)	方向性 (※7)		
南アフリカ 	BBB-	7.49% (▲0.06)	8.62円 (▲0.53%)	+0.7% 2016年4Q	7.00%	貿易収支は黒字幅が縮小した一方、製造業PMIは上昇。大手格付機関2社による同国債務格付けの据え置きを受けて、国債利回りは低下。市場全般の米ドル安を受けて、ランドは対米ドルで上昇、対円では下落。	GDP（国内総生産）や鉱物生産量などの発表を予定。同国債務格付けの更なる引き下げリスクは後退したものの、政治的な不透明感の残存から債券・為替市場ともに上値の重い展開を予想。
	Baa2	 金利上昇		 景気鈍化	 据え置き局面		
インドネシア 	BBB-	6.71% (+0.00)	0.83円 (▲0.96%)	+5.0% 2017年1Q	4.75%	製造業PMIは50超の水準を維持。インフレ率は食品価格の上昇を受けて伸び率が加速。一方、コアインフレ率が前月からやや鈍化したことなどを受け、国債利回りはほぼ変わらず。円高により、ルピアは対円で下落。	外貨準備高や消費者信頼感指数などの発表を予定。米国での国債利回りが低水準に推移する中、相対的な利回り水準の高さが選好されやすく、国債利回りは低下しやすい地合いを予想。ルピアは底堅く推移する見込み。
	Baa3	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		
インド 	BBB-	6.76% (▲0.06)	1.73円 (+0.52%)	+6.1% 2016年1Q	6.25%	GDP（国内総生産）は大きく下振れ。一方、政府による2016年度の予算目標を達成との発表を受けて、国債利回りは低下。ルピーは対円で下落。市場全般の米ドル安を受けて、対米ドルでは上昇。	金融政策決定会合などを予定し、政策金利は据え置きの見通し。国内改革の進展が好感されやすい一方、欧米中銀のイベントを控え、債券・為替市場はこれらに左右される展開を予想。
	Baa3	 金利横ばい		 景気回復	 据え置き局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（南アフリカ：5年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。

※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

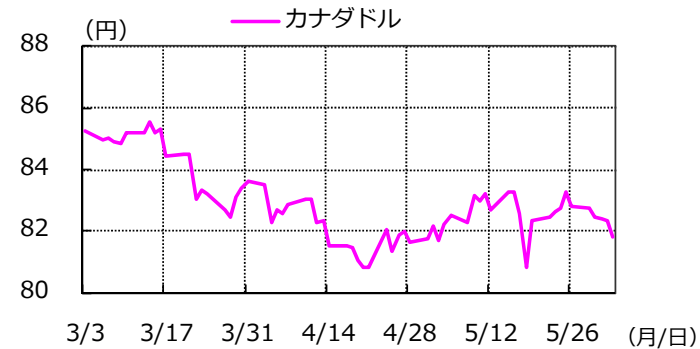
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。

※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

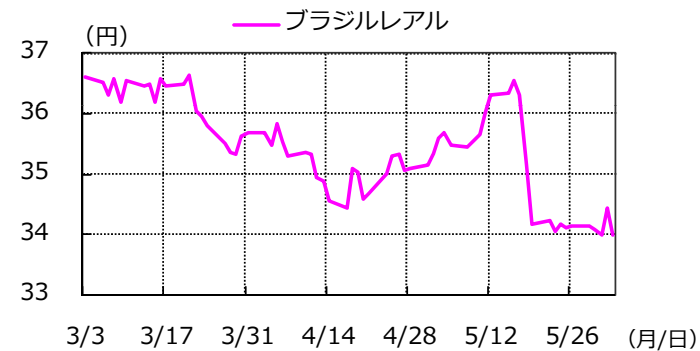
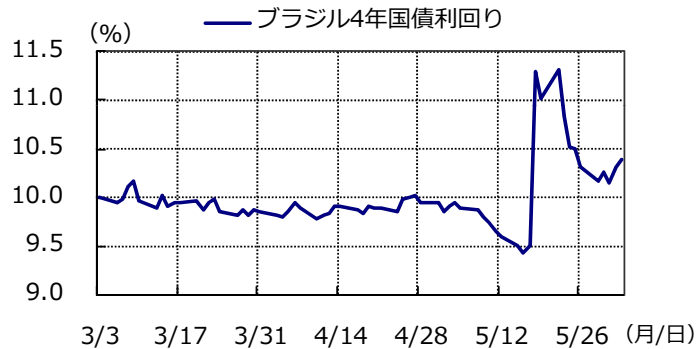
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/3/3～2017/6/2

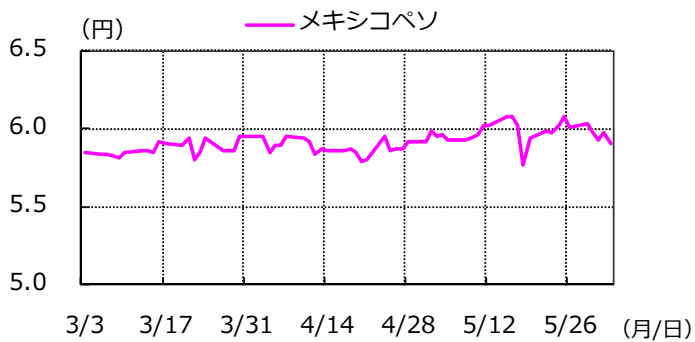
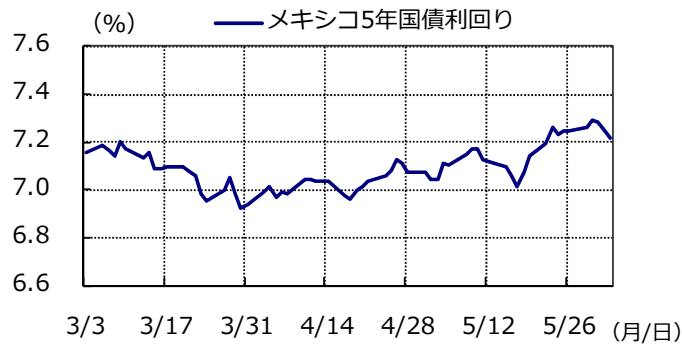
カナダ



ブラジル



メキシコ

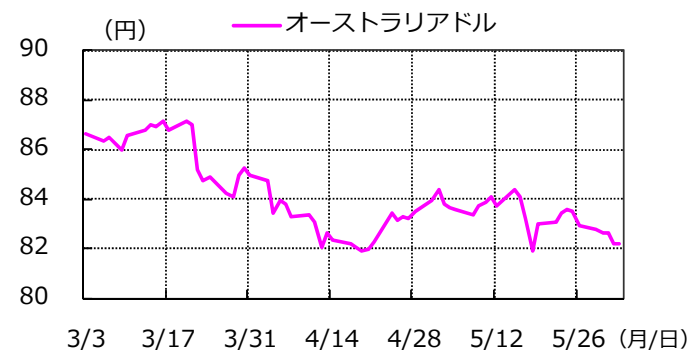
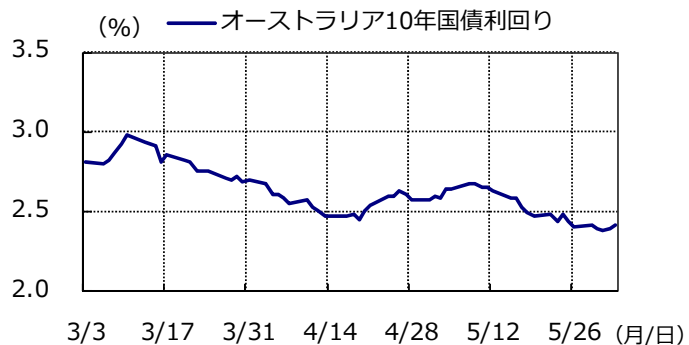


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

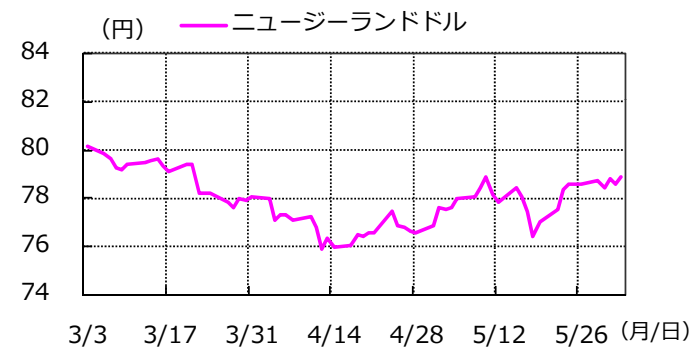
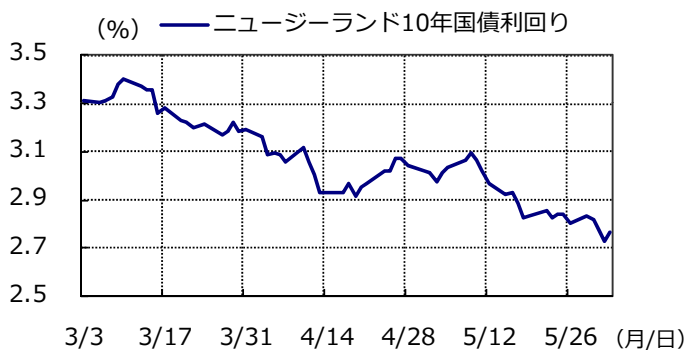
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/3/3～2017/6/2

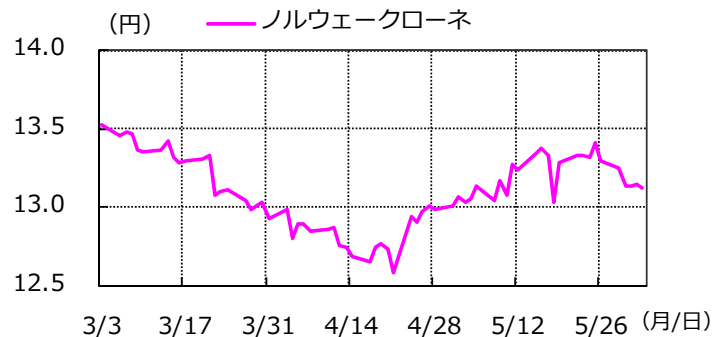
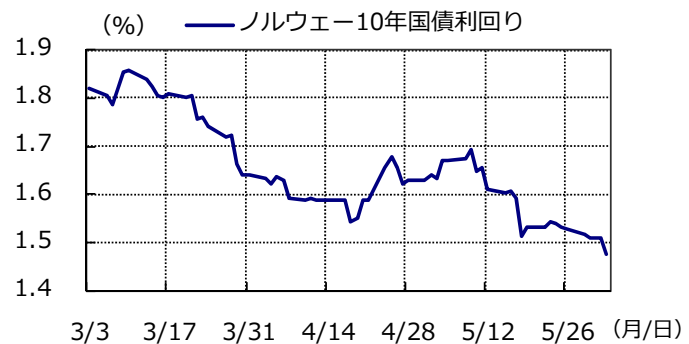
オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー



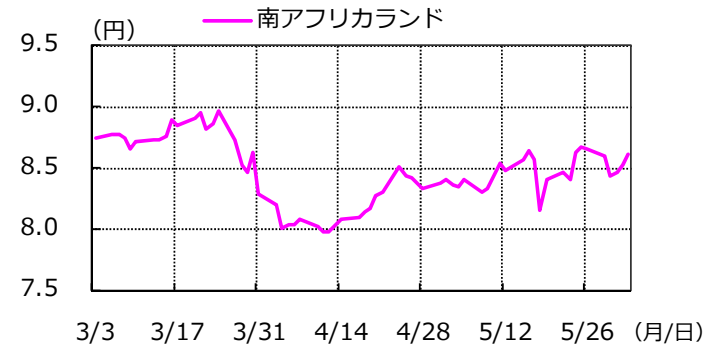
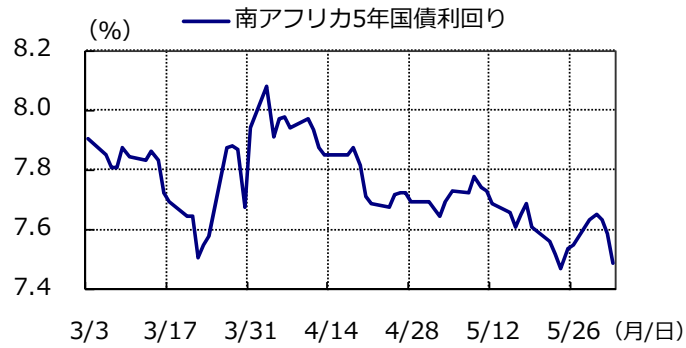
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

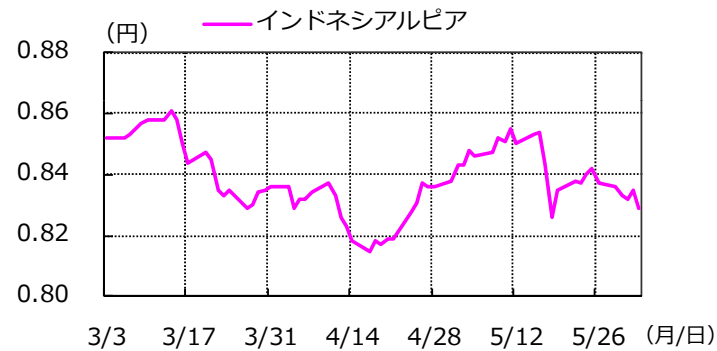
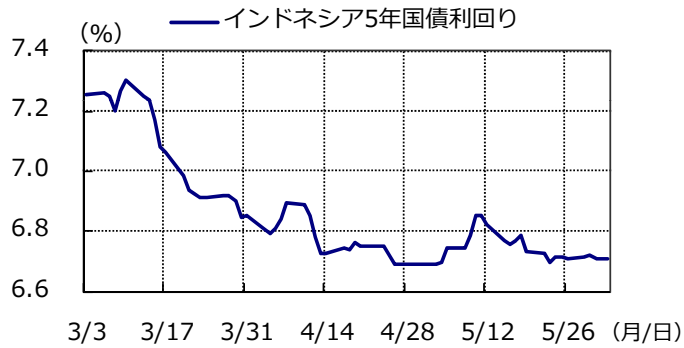


期間：2017/3/3～2017/6/2

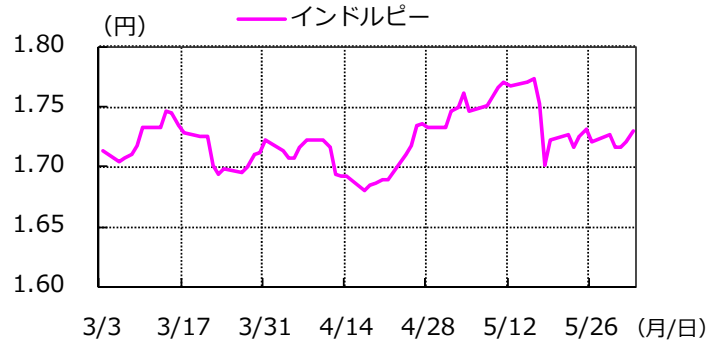
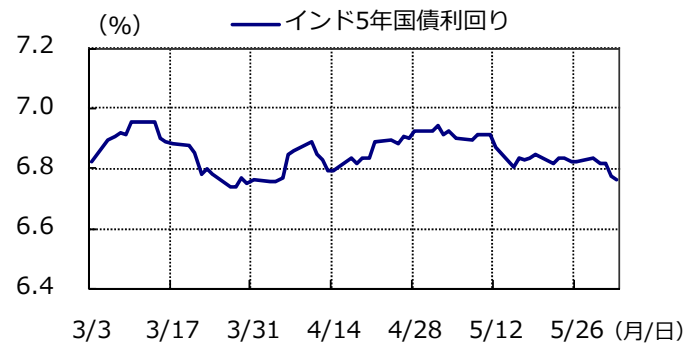
南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

# 投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

## 【投資信託に係るリスクと費用】

### ● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

### ● 投資信託に係る費用について

【ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。】

#### ■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限4.104%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

#### ■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.6824%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

## 【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。